

# 漢 字 力

——留学生（中国語母語話者）を対象として——

中 野 琴 代

## 目 次

1. はじめに
2. アンケートの概要
3. アンケート パートⅠについて
  - 3-1. 問題1：同訓異字を書き分ける
  - 3-2. 問題2：同音異字を書き分ける
  - 3-3. 問題3：文脈の中で
4. アンケート パートⅡについて
5. アンケートの回答から見えてくるもの
6. おわりに

## 1. はじめに

漢字圏とは一般に中国、台湾、朝鮮半島および日本を指す<sup>1)</sup>。漢字は中国語の文字であるが、この表意（表語）文字は長い時間をかけて近隣へその使用領域を広げ、使用人口を増やしてきた。漢字は「形」「音」「義」の三つの要素から成り立つとされるが、その長い歴史の中で、また漢字圏の拡大に伴い「形」「音」「義」の全てに変化が発生している。特に「音」は、中国国内の方言音、外国借用音（朝鮮漢字音、日本漢字音、安南漢字音）など、さまざまな音韻体系に取り込まれる過程で元の古代中国語音とはかなり隔たった音声となっているものが多い。

日本漢字音には音読みと訓読み、さらに慣用音があり、音読みには輸入された時期によって呉音、漢音、唐音など、訓読みも意味によって違う読みを持つなど多いものでは6～7種もの読みを持つ漢字もあり、漢字学習の問題の一つとなっている。漢字圏出身者が外国語として日本語を学ぶ時、漢字の力は大変有力な助けとなる。特に読解では漢字仮名交じり文を基本とする日本語文は漢字が鍵となって内容を理解しやすく、正確さを別にすると、一般に漢字圏出身者は非漢字圏出身者と比べて速読が可能である。一方で、漢字に頼り過ぎる故の誤読、類似語の

混乱、また文字（漢字）による文脈理解が可能なため発音がおろそかになり、いつまでたっても正確な読みが身につかない、ひいては読解に比べて音声による聴解力が著しく劣るなどの問題も出てくる。

今回のアンケートは、中国語を母語とする日本語学習者（留学生）の漢字力について調査し、その実状を観察するとともに漢字能力について考察し、さらに学習者に内省を促すこと、そしてそれによって正確な漢字力を補強することを狙いとしたものである。今回取り上げた漢字は膨大な漢字の、また常用漢字の中でもほんの一部であり漢字語彙の一端に触れるものにすぎないが、人々の漢字に向ける意識と漢字力の向上に役立つことを願っている。

## 2. アンケートの概要

アンケートは2010年7月23日、日本語授業の最終回（春学期末）に行った。回答時間はパートⅠとパートⅡを合わせ50分、アンケート記入に当たって以下のことを伝え、指示した。

- アンケートの主旨は日本漢字の知識と運用力を調べるものであること。
- パートⅠは同訓、同音の漢字（漢語）の書き分け、パートⅡは複数の読みを持つ漢字を読み分けるものであること。その記入に当たっては、複数の文で同じ漢字が使えるものもあるが使い分けが可能な場合はできるだけ文意に沿うものを書いて記述すること。
- アンケートは日本語科目の成績・評価に全く影響しないこと。また辞書（電子辞書を含む）使用は不可とした。

アンケート回答者と設問については以下のとおり。

□回答者（その内訳）→考察対象者31名

- ・ 1 年生 21 名 (中国 19 名、韓国 2 名)
- ・ 2 年生 13 名 (中国 12 名 韓国 1 名)

アンケート回答者 34 名のうち、韓国 3 名を除く中国語母語話者 31 名が考察対象である。彼らは入学試験合格の学生たちであり (日本留学試験および本学留学生入試)、日本語能力試験 2 級程度の力は有している。

#### □設問

パート I の問題は全て文 (章) で与え、文 (章) 意に沿う漢字 (漢語)、読みを記述式で回答するよう、パート II は漢語の読み (発音) をやはり記述式で回答するよう設定した。

#### ・ パート I

問題 1 : 同訓異字を書き分ける。38 問。

問題 2 : 同音異字を書き分ける。36 問。

問題 3 : 文章の中のことばの漢字 (漢語) を、また漢語の読みを記述。12 問

- ・ パート II 複数の音読みを持つ漢字の熟語を読み分ける。1 漢字に 6 語×10=60 問

### 3. アンケート パート I について

パート I の問題 1 および問題 2 の設問と回答、問題 3 の設問は最後の〈資料 1 問題 1〉〈資料 2 問題 2〉〈資料 3 問題 3〉に提示する。ここでは回答を分析し、そこに見られる傾向を述べる。

#### 3-1. 問題 1 : 同訓異字を書き分ける。

設問 (1) ~ (9) は動詞、(10) は名詞の品詞である。現代中国語 (普通話 以下同) は一字より二字で構成される漢語が多いが、設問の動詞のほとんどは日本語と中国語で共通の漢字 (中国語簡体字) が使用または含まれており、文脈が理解できれば中国語母語話者にとってさほど難しいものではない。そのような意識の反映か回答率は全体的に高く、回答者数が考察対象者 (31 名) の半数に達しなかったのは (1) ~ (10) の 38 問中 3 問のみであった。しかし、日本語で規範となる回答が少ない (半分以下) ものが全問中 18 問あった。この規範回答が少なかった 18 問には以下の A~C の要因が考えられる。

A. 日本語と中国語で共通しない表現 (漢字) は定着しにくい。

例 : (9) ⑥「(委員会に) 諮る」は中国語意識「商量」

(5) ②「(成功を) 収める」③「(勉学を) 修める」、(6) ①「(気が) 利く」、(7) ②「(帯を) 閉める」、(9) ①「(便宜を) 図る」⑥

B. 共通漢字で表現される場合、中国語簡体字が固定し日本漢字が定着しにくい。

(6) ③「効く」に中国漢字「效」を使う。

C. 書き言葉や文語表現で、かつ他に日常の平易な表現があるものは定着しにくい。

例 : (8) ④事務を執る→事務 (の仕事) をする。

(2) ①「(書物を) 著す」、(4) ①「(結核に) 侵される」、(5) ④「(国を) 治める」、(8) ④、(9) ③「(暗殺を) 謀る」

上述 A. B. C のいずれにも該当しないものがある。

- ・ (1) ③「(にわか雨に) 遭う」、(2) ②「(喜びを) 表す」、(5) ①「(部費を) 納める」、(7) ③<sup>2)</sup>、(8) ②「(ネズミを) 捕る」③「(職員に) 採る」

これらは C のような書き言葉や文語表現というほどではないが、他に類義または原義が単純・明快で広義に用いられ、そのため使用範囲が広く使用頻度も高い漢字が存在するものである。日常ではそれらのほうが多く使われている。

例 : (8) ②ネズミを捕る<取る / ③職員に採る<取る

以上から次のことが言える。

D. 日常の語彙・表現では原義が広く使用頻度の高い漢字 (漢語) が用いられる。

また、A. B. C. D. の条件に該当しながらも回答者数、規範回答ともに高かったものもある。

(6) ②④「聞く」は中国語で普通「听 (聴)」を用いるが、大半の回答者が「聞」を使用している。「聞く」という行動は人間の基本行為であり、そのため日本の生活の中で定着していると考えられる。また設問 (10) は日本語の規範解答は①「元」②「基」③「下 (元)」④「元」であり中国語意識の①「原先」②「按」③「在~」④「原来」とは隔たりがあるが規範解答をしたものが多く、やはり日

本語として定着していることがうかがわれる。

E. 日中で表現（漢字）が違っていても基本的行為・事柄は日本語表現が定着している。

### 3-2. 問題2：同音異字を書き分ける

問題2の設問は二字漢語の名詞、または動詞「漢語名詞+する」の形態である。問題1と同様、日・中で共通の漢字（漢語）を用いるものが多く文脈からの助けもあるので難度はさほど高くないと考えたが、実際の回答では、回答率が半分以下のものが全問中9問、また規範の回答が半分以下のもの19問と、回答率、規範回答率ともに問題1よりも低くなる。この19問の内容を分析してみると、

A. 日本語と中国語で共通しない表現（漢字）は定着しにくい。

(5) ④「成算」中国語意識では「把握」

(9) ①「(愚痴に) 閉口」は日本語の慣用表現

※ (5) ②「(乗り越し料金) 精算」も日中で表現は異なるが日本の日常生活でよく目にするためか、こちらは規範回答率が高い。

B. 共通の漢字表現の場合、中国語簡体字が固定し日本漢字が定着しないことがある。

例：(3) ③「後世」→中国簡体字「后世」

(2) ③「氣勢」、(3) ③、(8) ①「投棄」⑤「投機」、(10) ②「補償」

C. 書き言葉や文語表現で、かつ他に日常の平易な表現があるものは定着しにくい。

(5) ①「(過去を) 清算(する)」→「整理する」

D. 日常の語彙・表現では原義が広く使用頻度の高い漢字（漢語）のほうが用いられる。

(1) ①「遺志」：「意志」「意思」を含め17人。

また、(7) ①「添加」は中国語「加添」だが27人回答中20人が「添加」の日本語の漢語構造で回答している。

E. 日中で表現（漢字）が違っていても基本行為・事柄の日本語表現は定着する。

では、それ以外の規範回答の少ない10問にはどのような理由があるのだろうか。さらに見ていくと次の共通点が考えられる。

・同音や文字形が近似の漢字や、何とか使える（と

思われる）漢字（漢語）が用いられている。

(2) ①「既成（概念）」②「既製（品のスーツ）」のどちらにも「既成、規制、既製、規製」、「既」に文字形が似る「即成」など。

(3) ①「校正」に「更正」、同音ではないが「誤正」「改正」なども。

(5) ④「成算」に「勝算」を当てる。

(6) ③「対照（的な性格）」に「対称」「対相」「対象」を当てる。

(7) ②「(ガスに) 点火」に同音の「転化」「転換」を、③「(責任) 転嫁」に「転加」「転化」「転稼」「転禍」を当てる。

(8) ②「陶器」に「土器」「銅器」を当てる。

(9) ③「平衡（感覚）」に「併行」、異音・異義の「偏向」など。

(10) ②「(損害) 補償」に簡体字使用のものとして並んで「保証」「保障」、意味が近い「賠償」など。

また(8) ③「(土地の) 登記」④「(物価の) 騰貴」の2問は回答率が非常に低く、規範回答は③1人のみ。

以上の誤用例からは、文脈に助けられて文意げ理解できても答えることはできない、すなわち漢字語彙力の不足、漢字の「形」(文字)と「音」(読み)の不正確さが推察されるのである。

F. 正確な漢字語彙力の不足。

G. 漢字の形が正しく身につけていない、したがって正しく書けない。

H. 漢字の読みが正しくない、または曖昧である。

このF.G.H.はいわゆる漢字の間違いであり、日本人にも指摘されるものである。

### 3-3. 問題3：文脈の中で

日本国憲法前文より提出した。問題文は<資料問題3>を参照されたい。12問のうち、漢字の読みと書きそれぞれ6問である。

規範解答の後に正答数（正答率）、回答者数、主な誤用例を提示する。

□規範解答：正答者数（正答率）／回答者数 主な誤用例（その数）

①協和：8人（25.8%）／21人

誤用例：共和（7人）など

- ②ゲンシュク：1人(3.2%) / 30人  
誤用例：ゲンソウ(8人) など
- ③福利：25人(80.6%) / 27人
- ④キョウジュ：2人(6.5%) / 29人  
誤用例：ショウジュウ・キョウジュウ(各5人) など
- ⑤普遍：0人(0%) / 26人  
誤用例：不変(19人)、不平(4人) など
- ⑥排除：5人(16.1%) / 20人  
誤用例：廢徐(7人)、中国漢字「廢徐」(4人) など
- ⑦コウキョウ：15人(48.4%) / 25人  
誤用例：ヘイキョウ(4人) など
- ⑧スウコウ：0人(0%) / 27人  
誤用例：ソウコウ・ジュウコウ(各7人) など
- ⑨信頼：28人(90.3%) / 29人
- ⑩維持：18人(58.7%) / 25人、  
誤用例：支持(2人)、唯持(1人) など
- ⑪レイジュウ：4人(12.9%) / 22人  
誤用例：リジュウ(2人) など
- ⑫しめる：30人(87.1%) / 30人

設問の11問は中国語でも同漢字(漢語 簡体字)が使われる。設問⑩「隸従」のみ中国語では「隸属」。回答率は全体に高い。正答率は漢字(漢語)の「書き」で高く、「読み」では低くなる。

「書き」の設問③「福利」⑨「信頼」は多くが、⑩「維持」も半数以上が正答である。④「協和」⑥「排除」は正答が少なく⑤「普遍」は正答ゼロだが、これらの回答率は高く、その多くが文意を損わない(と思われる)同音の漢字を用いている。文脈に助けられてどのような意味の語を入れるべきかは理解されていると思われる。

それに対して「読み」の設問では訓読み⑫「占める：し」の正答率は高かったが、音読み②「厳肅：ゲンシュク」④「享受：キョウジュ」⑧「崇高：スウコウ」の正答率は極めて低く、⑦「恒久：コウキョウ」⑪「隸従：レイジュウ」も半数に達していない。問題3の訓読みの設問は⑫「占める」1問のみの、しかも日常の語であるので断定はできないが、中国語母語話者は訓読みよりも音読みのほうが苦手な可能性がある<sup>3)</sup>。前述の問題1(同訓異字)より問題2(同音異字)のほうが回答率、規範回答

率とも低いことも同様の原因が考えられそうだ。回答率は高いので自分ではわかっているつもりと思われるが、誤用例を見るとそのほとんどは中国語音からの類推であることが推察される。この、日本漢字の音読みに中国語音からの類推を働かせているということは、実は、日本漢字の音読みを外国語音と意識して習得していないことの表れであり、曖昧にはわかる(わかった気がする)が正確な読みの力は無いことを示している。

誤用例では、直音と拗音、長音と短音の別、清濁の混乱の誤りが目立つ。

例②厳肅：ゲンシュク → 誤用例：ゲンソウ、ゲンソ、ゲンジュクなど

例⑧崇高：スウコウ → 誤用例：ソウコウ、ジュウコウ、シュウコウ、スイコウ等

I. 日本漢字は訓読みより音読みのほうが曖昧または不正確になる傾向がある。

#### 4. アンケート パートIIについて

複数の音読みを持つ漢字の中から直音と拗音の音読みを持つ漢字10字を取り上げ、その漢字を含む漢語の読みを問うものである。設問と正答(規範解答)、正答者数(率)、主な誤用例(その数)は<資料4 パートII>に提示し、ここでは分析を行う。

回答率は全体的に高い。回答が最も少ないものでも15人((6)⑥)。一方、回答および正答(規範解答)とも80%以上のものは8問。

漢字は「興」「執」「省」「相」「行」「強」「性」「定」「生」「名」の10字である<sup>4)</sup>。

以下、それぞれの漢字について見ていく。※/ /は中国語ピンイン表記。

(1)「興」は現代日本語で「コウ」(呉音)が「はじまる、さかんである」の意味に、「キョウ」(漢音)が「よろこぶ、たのしみ」の意味を表わす。中国語では/xing/ (一声)と/xing/ (四声)の二つの声調があり、前者は日本呉音「コウ」の、後者は漢音「キョウ」の発音と意味の分布領域にはほぼ一致する。

設問を見る。拗音「キョウ」(漢音)の①「興味」④「即興」⑥「興趣」と、直音「コウ」(呉音)②「興奮」③「復興」⑤「興隆」を比べると、回答数は拗音の方がやや多いが、正答数を見ると、

直音（呉音）と拗音（漢音）のどちらにも正答率の高いものと低いものがあり、直音・拗音の違いによる差とは認められない。

誤用例でみると、①～⑥のうち、直音の読みを拗音としたもの24人、拗音の漢語を直音としたもの16人である。また母音の無声化による促音③「フッコウ」を促音化の無い「フクコウ」としたものの2人、⑥「キョウシュ」を長音「キョウシユウ」としたものが4人いる。

(2)「執」の漢語は多くない。「執」は本来「シユウ」と「シツ」の読み分けに拠る意味の違いは無いが、現代日本語の漢語では「シツ」が「とり行う」、「シユウ」が「しつこくこだわる」と分かれ、発音と意味の違いの分布領域がほぼ一致していると言えるだろう<sup>5)</sup>。中国語では発音は/zhi/（二声）1つである。

漢字「執」の回答率は他のグループと比べるとやや低く、正答率は全問一桁台、⑤「執拗」に至っては正答ゼロと非常に低い。このグループの漢語は書き言葉や改まった表現が多く使用頻度が低く、したがって学生にとってなじみが無い言葉が多いと考えられる。誤用例では大半の回答が「執」を「シ」「ジ」の1音節で回答しており、②「執着」を「シチャク」「シツチャク」、③「執念」を「シネン」「ジネン」などと拗音を直音で読んだものが目立った。他に①「シッコウ」④「シッケン」の促音を抜かしたものが合計22人、清濁の間違いが27人。

(3)「省」は呉音「ショウ」が「はぶく、略す、役所・官庁の単位」の意味、漢音「セイ」が「かえりみる、安否を問う」の意味で用いられる。中国語でも/sheng/（三声）と/xing/（三声）に発音が分かれ、前者が呉音の拗音「ショウ」と後者が漢音の直音「セイ」と、意味範囲がほぼ一致する。

このグループは回答率が高く、正答率も四字熟語④「人事不省」を除き50～80%台と健闘している。「人事不省」は中国語にもあるが、「(ジンジ)フセイ」より「フショウ」と回答した者の方が多い。中国語/xing/（三声）で「わかる、自覚する」の意味から日本漢音「セイ」への読みの類推がつかっていない。

(4)「相」は日中とも読み（声調）の違いに伴う意味の違いがあるが、その領域は日中でずれがある。現代日本語では呉音の直音「ソウ」は「見る、

ありさま、様子、たがいに」の意味の、漢音の拗音「ショウ」はそのほとんどが「大臣（君主の補佐）」の意の漢語に使用される。⑥「相伴」は例外である<sup>6)</sup>。中国語では/xiang/（一声）が「たがいに、一方から他方への働きかけ」の意味を、/xiang/（四声）が「ものの外観、ありさま、観察する、君主の補佐」を表わす。

このグループの回答率が高いが、正答率は⑤「相似」⑥「相伴」では極端に低い。全体として「相」を直音「ソウ」としたものが多かったが、②「真相」③「相違」⑤「相似」の「相」を「ショウ」としたのも少数だが存在する。その他、④「首相」を「シュショ、シュウショ、シュッショウ、シュウショウ」と長音と短音の混乱が合計10人、清濁の混乱も見られる。

(5)「行」は、「ならび、順序、きまって行う事柄」の意味の少数の漢語のみ拗音「ギョウ」（呉音）で、直音「コウ」（漢音）のほうが広義に用いられる。「アン」（唐音）は特殊な「行燈、行火」などのみ。中国語でも「いく、行う、行為」など広義は/xiang/（二声）が担い、/hang/（二声と四声）/heng/（二声）は「行、序列、商売の業務」など少数の語のみである。

直音「コウ」の①「行為」③「実行」④「流行」⑥「決行」は回答率、正答率とも高い。これらは日常で使われる語であることも回答率と正答率の高さに影響したと思われる。一方、②「行事」では「コウジ」としたものが規範解答「ギョウジ」とほぼ同数、④「行政」は誤答「コウセイ」が正答「ギョウセイ」の2倍以上ある。この数字は、呉音「ギョウ」の知識が無いことを示していると思われる。他に③「ジッコウ」⑥「ケッコウ」で促音の無いもの、また④「リユウコウ」を「リョウコウ」と拗音「ユ」と「ョ」の混乱したのも4人いた。

(6)「強」の呉音「ゴウ」は「無理やり（暴力で）、性質が片意地な」の意味の少数の漢語のみ、漢音「キョウ」が「つよい、つとめる、しいる」の広義を担う。中国語では/qiang/（二声と三声）、/jiang/（四声）の3種の発音があるが、ほとんどは/qiang/（二声と三声）が担っており、/jiang/（四声）は「いじっぱり」などの意味の少数のみである。

このグループは(2)「執」のグループの次に正

答率が低い。設問③「列強」を除いて直音読み、拗音読みの別なく低い、直音と拗音のどちらの回答が多いかでは圧倒的に拗音の回答が多い。拗音を直音に間違えたのは①「強硬」を「コウイン」(2人)、⑥「強韌」を「コウニン」(3人)のみで、これらは清濁の間違いもある。やはり少数派である呉音の知識が身につけていないことが推察される。正答が少ない理由として読み以外にも、耳にしたことぐらいはある表現③「強引」③「列強」などと、日頃めったに使う機会のない⑤「強欲」⑥「強韌」などで差がついたことも当然あるだろう。その他の発音の誤りとしては③「レッキョウ」の促音(無音域)を母音「イ」と聞き「レイキョウ」としたものが5人いた。

(7)「性」は拗音「ショウ」(呉音)は「気性、本性、魔性、性分」など「うまれつきのさが」の少数の語のみ、ほとんどの漢語は直音「セイ」(漢音)で読まれる。中国語の音は/xing/ (四声)のみである。

漢音読み①「性格」③「性能」⑥「性質」は正答率が高く、呉音読みの②「相性」④「根性」⑤「気性」では正答率は2~4人と極端に下がる。呉音読みの「~ショウ(ジョウ)」を②「ソウセイ」④「コンセイ」⑤「キセイ」と漢音の「セイ」で読んだものが圧倒的に多い。全体でも、直音「セイ」と読むべきを拗音「ショウ」に読んだものは皆無で、拗音「ショウ」と読むべきを「セイ」としたものは50人いる。また④「コンジョウ」は「根：コン」と「性：ショウ」の連結による連濁が起きているが、「コンショウ」「ネショウ」としたものが併せて4人いた。呉音「ショウ」の知識がありながら一つのまとまりを持つ漢語としてではなく漢字音の単なる連結としたための誤例である。

(8)「定」には呉音「ジョウ」と漢音「テイ」の読みがあり、呉音「ジョウ」は「必定、定石、定離」など仏教関係のもの、慣用表現など少数である。中国語音は/ding/ (四声)の一種。

漢音読み①「定義」②「決定」⑥「指定」は回答率、正答率ともに非常に高い。これらは使用頻度が高い漢語でもある。一方、③「杓子定規」は正答ゼロ、④「勘定」⑤「案の定」も日頃使われるはずだが、回答では④「カンテイ」⑤「アンノテイ」が正答と同数か、正答以上にある。誤用例全体でも、直

音「テイ」で読むところを拗音「ジョウ」としたものはゼロであるのに対し、その逆(拗音読みを直音で)が34人存在する。ことから漢字「定」に関しては直音「テイ」のほうが定着し、拗音「ジョウ」の知識が無いことがわかる。

(9)「生」は日本語では音読み「ショウ」(呉音)と「セイ」(漢音)の2つ、訓読みは6つの読みを持つ。現代中国語では/sheng/ (一声)の発音のみ。日本語・中国語とも「命、生きること」の意味で、その関わる意味領域は非常に広い。

設問①③~⑥の漢語は日中ともに使用されるもので、②「生涯」は中国語意識で「一生、終生」となるが全問の回答率が高い。しかし正答率ではばらつきが見られる。

①「生殖」の正答は半数近くで、やや専門性を帯びる語であることが正答の多くない原因かもしれない。③「出生」は本来「シュッショウ」と読むが現在「シュッセイ」のほうが通用しており「シュッショウ・シュッセイ」両方を併せると正答率が高い。④「生命」も正答率が高く、①③④はほぼ問題が無いと言える。一方、呉音読みの②「生涯」⑤「養生」は正答率が低く、②「生涯」では「ショウ~」と「セイ~」が同数、⑤「養生」では回答した26人中23人が「~セイ」としている。設問全体でも拗音(呉音)で読むべき語を直音(漢音)に読んだもの56人、その逆は7人と、学習者に呉音の知識が欠けていることがわかる。その他に⑤「ヨウジョウ」は「養」と「生」の連結からの連濁だが正答したのは1人のみであった。また⑥「生息」は誤用例「セイキ」「セイイキ」など「息」の音読みができておらず、語彙力の不足も原因と考えられる。

(10)「名」は日本漢字で呉音「ミョウ」、漢音「メイ」の2種の音読みを持つ。中国語では/ming/ (二声)。

回答率は全体に良い。漢音読みの①「名称」②「名声」③「署名」は正答率も比較的高く、④「名字：ミョウジ」は呉音読みだが日常使う語であるためか正答率は悪くない。⑥「悪名」は本来「アクミョウ」の呉音読みだが漢音読み「アクメイ」の回答が圧倒的に多く、両方を合わせれば正答率は高くなる。このグループのなかで最も正答が少なかったのは⑤「知名度」である。この語は3漢字の語で日常よく使用されるものである。誤りの多かったのは

「チメイド」を長音「〜ドウ」にしたもの（11人）、また「シメイド」と音読み「チ」を「シ」と訓読みしたものなど、直音と拗音以外の読みの誤用が目立つ。設問全体では呉音読み「ミョウ」を漢音の直音「メイ」としたものの30人、その反対は6人と、ここでも漢音読みが呉音に大差をつけている。

以上の（1）～（10）についてまとめる。

10 漢字の内、「興」「執」「省」「相」は日本語で音読みの違いが意味の違いとつながっている。中国語では「興」「省」「相」「強」が2種以上の発音（声調）を持ち、発音（または声調）の違いによって意味が異なるものである。読みの違いと意味の違いの分布領域が日本語と中国語で一致するのは「興」「省」のみである。この2字は直音・拗音のどちらの読みも複合漢語の数が多く、それらの使用度も高い。読みの違いと意味の違いを意識して関連付ける学習が必要であろう。

「執」「相」は、どちらも一方「執」は「シュウ」、「相」は「ショウ」の運用がごく限られており、これらの漢字については無理に共通点や相違点を探るよりも少数であっても必要な漢語を例外として覚えたほうがわかりやすいかもしれない。

「行」「性」「定」「生」「名」の5字は拗音が呉音、直音が漢音であり、「強」は直音「ゴウ」が呉音、拗音「キョウ」が漢音である。これら6字に共通するのは呉音が少数派であり、それぞれの漢字を含む複合漢語は漢音で読まれるほうが多いという点である。パートIIの回答でも、多数派の漢音読みの漢字（漢語）を呉音で読んだ誤答はごく少数だが、その逆の呉音で読まれるべきものを漢音読みした誤りは非常に多かった。これらについては呉音の知識が無いか、あっても曖昧で不正確なものであることが推測される。現在、日常的に使われている呉音読みの漢語のほとんどは仏教に出自するものや慣用句として存在するものに限られており、その多くは今後の造語の可能性は低いと思われ、そうであるとすれば無理に法則を立てて学習するより例外として記憶処理したほうが賢い選択と言えるだろう<sup>7)</sup>。

以上の、読みによって意味が違う漢字があるということ、また漢音と呉音についての知識が正確な音読み、ひいては正確な理解につながる重要な手段となることは明白である。しかし、漢字の読み分けに

おいてさらに重要な決め手となる要因がある。パートIIの全設問において見られたのは、意味の違いがあるにせよ、漢音と呉音の違いにせよ、正答率が高かったのは日常の使用頻度が高く、使いこなれた漢字（漢語）であった。これは漢字の応用力がついているおかげだと考えられる。ここで言う応用力とは、ある漢字を日常で使い、その漢字を含む複数の漢語を使いこなす中で身についた力ということであり、漢字を単なる文字として記憶するのではなく、漢字と、その漢字に表される概念が結びつくことによって他への応用を可能にする力である。そして、そこまで使いこなす漢字の使用量と、漢字の正確な読みの定着はつながって連携していると考えられるのである。

その他に見られた読みの誤りとして以下のようなものがある。

- ・長音と短音の混乱
- ・清音（無声音）を濁音（有声音）とする。
- ・連濁の読みができない。
- ・促音化（母音の無性化などによる）ができない。
- ・特殊拍の混乱—濁音・促音・撥音・母音の間、拗音「〜ユ」と「〜ョ」の間で

## 5. アンケートの回答から見えてくるもの

パートIにおいて漢字（漢語）の誤りに次の要因が見られた。

- A. 日本語と中国語で共通しない表現（漢字）は定着しにくい。
- B. 共通の漢字表現の場合、中国語簡体字が固定し日本漢字が定着しないことがある。
- C. 書き言葉や文語表現で、かつ他に日常の平易な表現があるものは定着しにくい。
- D. 日常の語彙・表現では原義が広く使用頻度の高い漢字（漢語）のほうが用いられる。
- E. 日中で表現（漢字）が違っていても基本の行為・事柄の日本語表現は定着する。
- F. 正確な漢字語彙力の不足。
- G. 漢字の形が正しく身につけておらず、したがって正しく書けない。
- H. 漢字の読みが正しくない、または曖昧である。
- I. 中国語音からの類推は日本漢字の音読みを曖昧または不正確にすることがある。

パートⅡでは漢字（漢語）の正確な読み分けを促す要因として以下のものが見られた。

- ・読みによって意味が異なる漢字についての知識
- ・日本漢字の漢音と呉音および慣用音などの知識
- ・漢字（漢語）の使用量と、それに伴う応用力

パートⅠ・Ⅱの観察から、考察対象者（留学生）に見られた傾向は3点、いずれも一長一短がある。

1. 母語である中国語からの影響を良くも悪くも被っている<sup>8)</sup>。

プラスとしては漢字（漢語）意味の類推によって内容の理解が促進されるが、日本語と中国語とで表現が異なったり意味がずれる場合は類推が働かず重大な誤りとなることもある。また中国語に頼り過ぎると正確な日本漢字の知識が無く、正確な読み、書きの力もつかない。

2. 漢字の詳しい使い分けを意識しなくなっている。

よく言えば細かいことにこだわらない、きびしく言えば漢字（漢語）の使い方に無関心、無頓着になりつつあるようだ。書き言葉や文語表現で他の平易な表現があるとか、規範ではないが日常使いたれた漢字（漢語）で表せる場合、規範のほうが定着せず、広義の日常多用される漢字のほうが用いられやすい。また類義の同音漢字がある場合、正確に使い分けられず混乱するなどが目立った。

頻繁に使用することで定着率が良くなるのはメリットである。しかし、広く使える使いやすいものばかりが多用され、意味が限定されるものが使われなくなると、やがて使用頻度の低いものは淘汰され、さらに進めば意味の精確さや語彙力の乏しさにつながるかもしれない。

3. 造語力<sup>9)</sup>

日本語には和語、漢語、外来語、混種語があり、その多様さが日本語音韻（音素）の少なさを補って豊富な語彙・表現をつくりだしている。この中で漢字の造語力はこれまでの日本語の歴史の中で証明されている。新しく誕生することばは何もないところから突然、出現するのではない。今、使用されているものから生まれてくるのである。だからこそ現在のことばを正しく認識し、使いこなすこと、さらに他へとつなぐ力を養成することが

今、必要なのである。

アンケート全般で高い回答率からも学習者のほとんどが漢字には自信を持っていることが感じられる。彼らが日常よく使う漢字については既に応用力が獲得されつつあるとも思われる。しかし全体では、漢字知識の不足、特に読み書きが正確でなく、使いやすい漢字ばかりを多用する学習者が目立った。このような傾向が進めば将来、語彙力の貧しさにつながっていくのではないかと懸念される。自身の漢字力を内省し、今後、完全する努力が必要である。

## 6. おわりに

日常生活の言語活動は音声によるところが大きい。漢字は言語の4技能「話す」「聞く」「読む」「書く」のうち「読む」「書く」の面でのみ重視されやすいが、実際には「話す」「聞く」も漢字抜きには成立しない。高度な内容や知識の伝達に漢字（漢語）は不可欠であり、一過性の音声によって高度な内容を話し、聞き、理解するには漢字（漢語）の語彙力が身につけていなければならないからである。大学入学まもない留学生が日本語学校や日常生活では大過なくきたのに大学の勉学で苦戦するのはこの語彙力が不足していることが大きい。専門科目の授業では専門性の高い語、表現も習得しなければならない。漢字圏の中でも共通するもの、異なるもの、ずれのあるものなど正しく運用するには知らなければならないことが多くある。漢字は正確な知識を獲得した時に強力な力となるのである。

### (注)

1) ここで言う漢字圏とは、現在、日常生活の中で漢字を使用する国・地域を指す。漢字圏と漢字文化圏とは厳密には同じではない。漢字の恩恵を受けた漢字文化圏はさらに広い領域である。

2) (7) ③は複数の理解が可能で考察対象から除外した。

「公園は子どもたちで占められて（占領されて）いる」

「公園は子どもたちで閉められて（閉鎖されて）いる」

3) 原野（1993）参照



- 4) 田窪 (1985)、原野 (1995) 参照  
 田窪 (1985) では、意味による読み分け、位置による読み分けを説明している。  
 原野 (1995) では、語順による読み分け、語構成による読み分け、意味による読み分け、和語・漢語による読み分けの分類を行っている。
- 5) 原野 (1997) では、「執」について以下のように分ける。  
 シツ：手に取る、仕事や職務を処理する、とりおこなう—執筆、執刀、執務など  
 シュウ：心がとらわれる—執心、執着、固執、執念 (例外：執拗)
- 6) 原野 (1995) 参照
- 7) 原野 (1995) 参照
- 8) 原野 (1993) は漢字圏出身の留学生を対象に漢字調査を行い、それに基づき「漢字総合力と最も相関が高いのは読みで、読みの学力によって漢字総合力に占める読みの比重は大きい」としている。
- 9) 荒川 (2007) は漢字の意味について「(漢字が) 意味があるように人に思わせるのは、その文字がなんらかの言葉単位を表記しているか、あるいはなんらかのこばを想起させるからである」、さらに「意味喚起性の高いものは、多くの複合語に用いられているか、よく使われる語に用いられている場合である。言い換えれば、ことなりの多さと、のべの多さの集積が問題になる」と述べている。また造語力について漢字語基からつくられる複合語が今どのくらい存在するかが今後の造語力を類推する鍵になると

示唆する。

#### 参考文献

- ・石田敏子・仲野桂子 (1980)：「漢字の難易度 その統計による判断と経験による判断」『日本語教育』42号
- ・荒川清秀 (1985)：「「下」の二つの音<カ><ゲ>の読み分けについて」『日本語と中国語の対照研究別冊』日本語と中国語の対照研究会編
- ・荒川清秀 (2007)：「日中両国語における漢字語基の意味と造語力」『日中対照言語学研究論文集—中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴—』和泉書院
- ・田窪行則 (1985)：「2つ以上の字音がある漢字の読み分けについて—日本語教師のためのまとめ—」『日本語と中国語の対照研究別冊』日本語と中国語の対照研究会編
- ・原野亮子 (1993)：「上級の漢字指導」『北九州大学文学部紀要』第48号
- ・原野亮子 (1995)：「中上級学習者のための漢字の読み指導—ルールによる字音漢字の読み分けについて—」『北九州大学文学部紀要』52号
- ・原野亮子 (1995)：「「地」の字音「ジ」と「チ」の読み分けについて」『北九州大学文学部紀要』52号
- ・佐藤喜代治など編著 (1996)：『漢字百科大事典』明治書院
- ・『外国人のための意味から学ぶ漢字 中上級用』東京法令出版 1991

## ＜資料1：パートI 問題1＞

(1) から (10) の設問ごとに回答した学生数：回答例（その数）をあげる。漢字が曖昧なものや判読が難しいものは「その他」に、中国簡体字を用いたものは「中国漢字」に含める。規範となるものに（網がけ）、最も多かった回答例に\_\_\_を付している。考察対象者は31名、合計で不足する数は無回答であることを意味する。回答の中で規範の回答が半数以下（15人）のものに○を、加えて回答も半数以下のものに◎を付ける。

問題1：（ ）の中に、指定されたことばを漢字（同訓異字 1字）で書きなさい。

## (1) あう

- ①彼とは意見が（ ）う。  
 ②彼と（ ）う約束の時間だ。  
 ③にわか雨に（ ）ってずぶ濡れだ。

□回答者数：回答例（その回答数）

- ①31人：合 (30)、和 (1)  
 ②31人：会 (26)、合 (5)  
 ○③23人：遭 (10)、遇 (4)、会 (3)、逢・有・合 (各2)

## (2) あらわす

- ①研究の結果を書物として（ ）す。  
 ②彼は満面で喜びを（ ）す。  
 ③逃げ場を失って、男は姿を（ ）した。

□回答者数：回答例（その回答数）

- ①31人：表 (23)、著・現 (各3)、示 (1)、その他 (1)  
 ○②30人：表 (14)、現 (11)、示・呈・遇 (各1)、その他 (2)  
 ③28人：現 (25)、表・示 (各1)、その他 (1)

## (3) うつつ

- ①花瓶を居間から玄関に（ ）す。  
 ②水面に白鳥が美しい姿を（ ）す。  
 ③彼に本を借りたので要点を（ ）す。

□回答者数：回答例（その回答数）

- ①30人：移 (26)、動・放・飾・射 (各1)、  
 ②30人：映 (21)、写 (3)、照・影 (各2)、射・印 (各1)  
 ③27人：写 (17)、移 (5)、抄 (2)、映・打 (各1)、その他 (1)

## (4) おかす

- ①彼の肺は結核菌に（ ）されていた。  
 ②ふとした気の迷いで罪を（ ）す。  
 ③A国がB国の領土を（ ）した。

□回答者数：回答例（その回答数）

- ①21人：侵 (8)、犯・冒・患・染 (各2)、抑・占・起 (各1) その他 (2)
- ②23人：犯 (20)、冒・起・圧 (各1)
- ③21人：侵 (19)、占・犯 (各1)

(5) おさめる

- ①クラブの部費を（ ）める。
- ②彼の出演で大成功を（ ）める。
- ③大学院で博士課程を（ ）める。
- ④国を（ ）める主権は人民にある。

□回答者数：回答例（その回答数）

- ①22人：納 (8)、抑 (7)、収 (3)、控 (1)、その他 (3)
- ◎②14人：収 (5)、占・納・抑・治 (各1)、その他 (5)
- ◎③14人：修 (8)、納 (2)、履・収 (各1)、その他 (2)
- ④16人：治 (4)、抑・定 (各3)、収 (2)、占・控 (各1)、その他 (2)

(6) きく

- ①新入社員の彼は気が（ ）く。
- ②音楽会でクラシックを（ ）く。
- ③傷口にぬった薬がよく（ ）く。
- ④彼の良くないうわさを（ ）いた。

□回答者数：回答例（その回答数）

- ①19人：利 (8)、聞 (4)、効 (2)、中国漢字「效」(1)、その他 (4)
- ②30人：聞 (27)、聽 (2)、中国漢字「聽」(1)
- ③25人：効 (14)、利 (1)、中国漢字「效」(10)
- ④29人：聞 (28)、中国漢字「聽」(1)

(7) しめる

- ①部屋のドアを静かに（ ）める。
- ②着物の帯をきつめに（ ）める。
- ③公園は子どもたちで（ ）められている。

□回答者数：回答例（その回答数）

- ①31人：閉 (29)、締 (2)
- ②27人：締 (15)、系 (6)、諦・閉・絞 (各1)、その他 (3)
- ③21人：占 (14)、閉 (3)、指 (2)、その他 (2)

(8) とる

- ①自分で責任を（ ）って辞任する
- ②天井裏のネズミを猫が（ ）る。
- ③国家試験の合格者を職員に（ ）る。

④学校の事務を（ ）る。

⑤履歴書にはる写真を（ ）る。

□回答者数：回答例（その回答数）

①30人：取（29）、採（1）

○②24人：捕（9）、取（5）、捉（3）、獲・得・狩・逮（各1）、その他（3）

○③20人：取（9）、採（4）、就（2）、得（1）、その他（4）

○④16人：取（9）、就（2）、執（1）、中国漢字（1）、その他（3）

⑤29人：撮（16）、取（5）、貼（2）、照（1）、中国漢字（5）

(9) はかる

①父は就職の便宜を（ ）ってくれた。

②お風呂場で体重を（ ）る。

③首相の暗殺を（ ）る。

④ズボンのウエストのサイズを（ ）る。

⑤マラソンのタイムを（ ）る。

⑥教育問題を審議会に（ ）る。

□回答者数：回答例（その回答数）

○①18人：量（6）、測（4）、図（3）、計（1）、その他（4）

②29人：測（16）、量（10）、称（2）、その他（1）

○③17人：謀（5）、測（3）、図・量（各2）、計（1）、中国漢字「査」（1）、  
その他（3）

④29人：測（15）、量（13）、計（1）

⑤26人：測（16）、計（9）、尺（1）

◎⑥14人：図・量（各4）、測・称（各2）、計（1）、その他（1）、諮（0）

(10) もと

①今は失業中だが（ ）は社長だ。

②規則に（ ）について処理する。

③現在の状況の（ ）では困難だ。

④（ ）を正せば彼が悪いのだ。

□回答者数：回答例（その回答数）

①29人：元（25）、本（2）、主・夫（各1）

②28人：基（16）、元（6）、根・本（各2）、下（1）、その他（1）

○③26人：元（6）、下・本（各5）、根・基（各3）、源（2）、原（1）、その他（1）

④27人：元（17）、本（4）、根・源（各2）、基・原（各1）

<資料2 問題2>

回答者数、回答例とその数は問題1と同様にまとめる。■は規範の回答例、    は最も多かった回答例である。○は規範回答が半数(15人)以下を、◎は回答、規範回答どちらも半数以下のものを示す。

問題2：( )の中に、指定されたことばを漢字(同音異字 2字)で書きなさい。

(1) イシ

①息子に亡き父の( )を継がせる。

②彼は見かけによらず( )薄弱だ。

③はっきりと( )表示をする。

□回答者数：回答例(その回答数)

○①22人：遺志(7)、意志(9)、意思(1)、その他(5)

②27人：意志(18)、意識(6)、意思(1)、その他(2)

③30人：意思(22)、意志・意識(各3)、その他(2)

(2) キセイ

①芸術は( )概念を捨てるべきだ。

②このスーツは( )品だ。

③接戦に応援団の( )があがる。

④明日、船で故郷に( )する。

□回答者数：回答例(その回答数)

◎①15人：既成・規制・寄生(各2)、規製・規正・即成(各1)、その他(6)

○②21人：既成(5)、既制(3)、既製・規制(各2)、即製(1)、その他(8)

○③20人：気性(5)、氣勢(3)、規制・気声(各1) 中国漢字「氣勢」(4)、  
その他(6)

④26人：帰省(22)、帰郷(1)、中国漢字「帰省」(3)

(3) コウセイ

①印刷物の文字の( )をする。

②父は( )労働省に勤める公務員である。

③私も( )に名を残したい。

④文章の( )をもう一度考える。

□回答者数：回答例(その回答数)

○①20人：構成(4)、更正(6)、改正・誤正・校正(各1)、中国漢字「構成」(1)、  
その他(6)

②31人：厚生(29)、厚省(1)、その他(1)

○③21人：後世(6)、後生(5)、中国漢字「後世」(3)、個性(2)、  
構成・功成(各1)、その他(3)

④25人：構成 (20)、中国漢字「構成」(3)、その他 (2)

(4) シンニュウ

①わが社の ( ) 社員は十五人だ。

②どろぼうが窓から ( ) した。

③ ( ) 禁止の立て札が出ている道路。

④雨水が床下から ( ) してきた。

回答者数：回答例 (その回答数)

①31人：新入 (31)

②30人：侵入 (24)、進入 (3)、潜入 (1)、その他 (2)

③28人：進入 (18)、中国漢字「進入」(4)、侵入 (2)、深入・新入・潜入 (各1)、  
その他 (1)

④28人：浸入 (20)、滲 (3)、侵入 (1)、その他 (4)

(5) セイサン

①過去を ( ) して再出発する。

②乗り越し料金を ( ) する。

③この地方は米の ( ) 高日本一だ。

④準備不足で ( ) が立たない。

回答者数：回答例 (その回答数)

◎①11人：清算 (8)、財産 (1)、その他 (2)

②26人：精算 (17)、清算 (4)、整算 (2)、その他 (3)

③28人：生産 (28人)

◎④14人：生産 (8)、勝算 (3)、成算・精算 (各1)、その他 (1)

(6) タイショウ

①左右 ( ) の安定感のある作品。

②子どもを ( ) にした水泳教室。

③兄と弟はとても ( ) 的な性格だ。

回答者数：回答例 (その回答数)

①25人：対称 (17)、対照 (4)、中国漢字「対称」(1)、その他 (3)

②29人：対象 (22)、対象・対相 (各2)、中国漢字「対象」(1)、その他 (2)

○③21人：対照 (10)、対称 (3)、対相 (2)、対象 (1)、その他 (5)

(7) テンカ

①できるだけ ( ) 物の無い食品を選ぶ。

②ガスストーブに ( ) する。

③彼は失敗の責任を私に ( ) した。

回答者数：回答例 (その回答数)

①27人：添加 (20)、転化 (6)、その他 (1)

- ◎②15人：転化 (5)、点火・添加・転換 (各3)、その他 (1)  
○③24人：転加 (8)、転嫁 (4)、転化・転稼 (各3)、転換 (2)、転禍 (1)、  
その他 (3)

(8) トウキ

- ①ゴミを不法に ( ) していた業者。  
②昔から家にある ( ) の壺。  
③土地・建物の ( ) 所に行く。  
④来年は物価が ( ) しそうだという。  
⑤知人の事業に ( ) して大もうけした。

□回答者数：回答例 (その回答数)

- ①22人：投棄 (7)、中国漢字「投棄」(6)、投機 (1)、その他 (8)  
○②20人：陶器 (13)、土器 (3)、銅器 (2)、その他 (2)  
◎③5人：登記・投機・投棄 (各1)、その他 (2)  
◎④2人：投機・同期 (各1)、騰貴 (0)  
◎⑤14人：投機 (9)、投資 (1)、中国漢字「投機」(2)、その他 (2)

(9) ヘイコウ

- ①母の長い愚痴には ( ) した。  
②話し合いはついに ( ) 線をたどった。  
③国際人は ( ) 感覚が鋭い。

□回答者数：回答例 (その回答数)

- ◎①6人：閉口・変更 (各2)、併行 (1)、その他 (1)  
②24人：平行 (18)、平衡 (4)、その他 (2)  
◎③9人：平衡 (4)、併行 (1)、偏向 (1)、その他 (3)

(10) ホシヨウ

- ①彼のまじめさは私が ( ) する。  
②工場の火災による損害を ( ) する。  
③社会 ( ) が充実している北欧の国々。

□回答者数：回答例 (その回答数)

- ①23人：保証 (21)、保障 (1)、その他 (1)  
○②22人：保障 (6)、保証 (2)、中国漢字「補償」(5)、補償・賠償 (各1)、  
その他 (7)  
③29人：保障 (26)、保証 (3)

## ＜資料3 問題3＞

問題3：次の文章は日本国憲法の条文です。太字部分のカタカナは漢字語（2字）に  
直し、漢字語はその読みを書きなさい。

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれら  
の子孫のために、諸国民との①キョウワによる成果と、わが国全土にわたって自由のも  
たらず恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにする  
ことを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそ  
も国政は、国民の②厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権  
力は国民の代表者がこれを行使し、その③フクリは国民がこれを④享受する。これは人  
類⑤フヘンの原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これ  
に反する一切の憲法、法令及び詔勅を⑥ハイジョする。

日本国民は、⑦恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する⑧崇高な理想を深く  
自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に⑨シンライして、われらの安  
全と生存を保持しようとして決意した。われらは、平和を⑩イジし、専制と⑪隷従、圧迫と  
偏狭を地上から永遠に除去しようとして努めている国際社会において、名誉ある地位を⑫  
占めたいと思う。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和の  
うちに生存する権利を有することを確認する。（略）



<資料4 パートII>

(1)～(10)の設問の漢字に読み(カタカナ：音読み(呉音・漢音の順)、ひらがな：訓読み)を提示している。以下、それぞれの漢語(正しい読み)：正答者数(正答率※31人を100%とし、小数点第二位は四捨五入)／回答者数、主な誤用例→誤(その数)としている。

正答が半数以下(15人)の設問に○、かつ回答者数が半数以下のものに◎、回答者数、正答者数ともに80%を超える(25人以上)ものに●をつける。

(1)興：コウ、キョウ、おこる、おこす

- ①興味(キョウミ)：23人(74.2%)／28人 誤：キョミ(5)
- ②興奮(コウフン)：20人(64.5%)／28人 誤：キョウフン(3)
- ③復興(フッコウ)：12人(38.7%)／28人 誤：フッキョウ(5)、フクキョウ(2)
- ④即興(ソッキョウ)：1人(3.2%)／25人 誤：キキョウ(5)、キッコウ(3)
- ⑤興隆：10人(コウリュウ)：10人(32.2%)／25人 誤：コウロウ・コウロン(各3)
- ⑥興趣(キョウシュ)：5人(16.1%)／25人 誤：キョウシュウ(4)

(2)執：シュウ、シツ・シュ

- ①執行(シッコウ)：5人(16.1%)／27人 誤：シコウ・ジコウ・ジッコウ(各3)
- ②執着(シュウチャク)：1人(3.2%)／20人 誤：シチャク・シツチャク(各3)
- ③執念(シュウネン)：1人(3.2%)／21人 誤：シネン(5)、ジネン(3)
- ④執権(シッケン)：1人(3.2%)／22人 誤：シケン(6)、ジケン(4)
- ⑤執拗(シツヨウ)：0人(0%)／16人 誤：ジユウ(2)、シュウヨウ(1)
- ⑥確執(カクシツ)：2人(6.5%)／19人 誤：カクジツ(4)、カクシ(3)

(3)省：ショウ、セイ、かえりみる、はぶく

- ①反省(ハンセイ)：25人(80.6%)／28人 誤：ハンショウ(1)
- ②帰省(キセイ)：21人(67.7%)／28人 誤：キショウ(4)
- ③省略(ショウリャク)：23人(74.2%)／28人 誤：ショウリョク(2)
- ④人事不省(ジンジフセイ)：4人(12.9%)／26人 誤：ジンジフショウ(10)
- ⑤外務省(ガイムショウ)：24人(77.4%)／28人 誤：ガイムショ(1)
- ⑥省令(ショウレイ)：17人(54.8%)／28人 誤：セイレイ(6)、ショウリン(1)

(4)相：ソウ、ショウ、あい

- ①相談(ソウダン)：25人(80.6%)／29人 誤：ソウタン(3)、ソندان(1)
- ②真相(シンソウ)：17人(54.8%)／28人 誤：シンショウ(4)、ジンソウ(2)
- ③相違(ソウイ)：18人(58.1%)／26人 誤：ショウイ(2)
- ④首相(シュショウ)：17人(54.8%)／27人 誤：シュウショウ(5)、シュショ(2)
- ⑤相似(ソウジ)：4人(12.9%)／22人 誤：ソウイ・ソウニ(各5)
- ⑥相伴(ショウバン)：2人(6.5%)／24人 誤：ソウバン(9)、ソウハン(7)

(5) 行：ギョウ、コウ、アン、いく、ゆく、おこなう、ゆくえ（行方）

●①行為（コウイ）：26人（83.9%）／27人 誤：コウギ（1）

○②行事（ギョウジ）：11人（35.5%）／26人 誤：コウジ（12）

③実行（ジッコウ）：22人（71%）／27人 誤：ジコウ（5）

④流行（リュウコウ）：22人（71%）／27人 誤：リョウコウ（4）

○⑤行政（ギョウセイ）：8人（25.8%）／26人 誤：コウセイ（17）

⑥決行（ケッコウ）：20人（64.5%）／25人 誤：ケコウ・ゲッコウ（各1）

(6) 強：ゴウ、キョウ、つよい、つよまる（める）、しいる

○①強硬（キョウコウ）：6人（19.4%）／21人 誤：キョウイン（3）、コウイン（2）

○②強情（ゴウジョウ）：1人（3.2%）／25人 誤：キョウジョウ（16）

○③列強（レッキョウ）：14人（45.2%）／25人 誤：レイキョウ（3）、レッキョ（2）

○④強引（ゴウイン）：8人（25.8%）／25人 誤：キョウイン（9）、キョイン（2）

○⑤強欲（ゴウヨク）：3人（9.7%）／25人 誤：キョウヨク（12）、キョヨク（2）

◎⑥強靱（キョウジン）：0人（0%）／15人 誤：キョウニン（6）、コウニン（3）

(7) 性：ショウ、セイ

●①性格（セイカク）：27人（87.1%）／27人 誤：0

○②相性（アイショウ）：4人（12.9%）／26人 誤：ソウセイ（10）、ショウセイ（2）

●③性能（セインウ）：25人（80.6%）／27人 誤：セイノ・セイノン（各1）

○④根性（コンジョウ）：2人（6.5%）／26人 誤：コンセイ（10）、コンショウ（3）

○⑤気性（キショウ）：3人（9.7%）／27人 誤：キセイ（22）、キジョウ（1）

⑥性質（セイシツ）：23人（74.2%）／27人 誤：セイジツ（4）

(8) 定：ジョウ、テイ、さだまる（める）、さだか

●①定義（テイギ）：26人（83.9%）／27人 誤：テイイ（1）

●②決定（ケッテイ）：26人（83.9%）／28人 誤：ケテイ・ケッテン（各1）

○③杓子定規（ジャクシジョウギ）：0人（0%）／16人 誤：ショウシテイキ（2）

○④勘定（カンジョウ）：12人（38.7%）／28人 誤：カンテイ（13）

○⑤案の定（アンノジョウ）：11人（35.5%）／24人 誤：アンノテイ（10）

●⑥指定（シテイ）：27人（87.1%）／28人 誤：シテン（1）

(9) 生：ショウ、セイ、

いきる（かす、ける）、うまれる（む）、おう、はえる（やす）、き、なま

○①生殖（セイショク）：14人（45.2%）／26人 誤：セイチ（3）、ショウショク（1）

○②生涯（ショウガイ）：7人（22.6%）／24人 誤：セイガイ・セイヤ（各3）

③出生（シュッショウ・シュッセイ）：4人（12.9%）・15人（48.4%）／26人

誤用例：シュウセイ（4）、シュセイ（2）

④生命（セイメイ）：23人（74.2%）／27人 誤：セイミョウ（3）、セイメン（1）

○⑤養生（ヨウジョウ）：1人（3.2%）／26人 誤：ヨウセイ（21）、ヨウショウ（1）

- ⑥生息（セイソク）：0人（0%）／26人 誤：セイキ・セイイキ（各7）  
（10）名：ミョウ、メイ、な  
①名称（メイショウ）：20人（64.5%）／25人 誤：メイショ（2）、メイジョウ（1）  
②名声（メイセイ）：19人（61.3%）／26人 誤：メイショウ（2）、ミョウセイ（1）  
③署名（ショメイ）：17人（54.8%）／27人 誤：ショウメイ（5）、シュウメイ（2）  
○④名字（ミョウジ）：14人（45.2%）／26人 誤：メイジ（5）、メイシ（3）  
○⑤知名度（チメイド）：9人（29%）／26人 誤：チメイドウ・シメイド（各3）  
⑥悪名（アクミョウ・アクメイ）：3人（9.7%）、21人（67.7%）／27人  
誤：アクメ・アクビョウ（各1）、